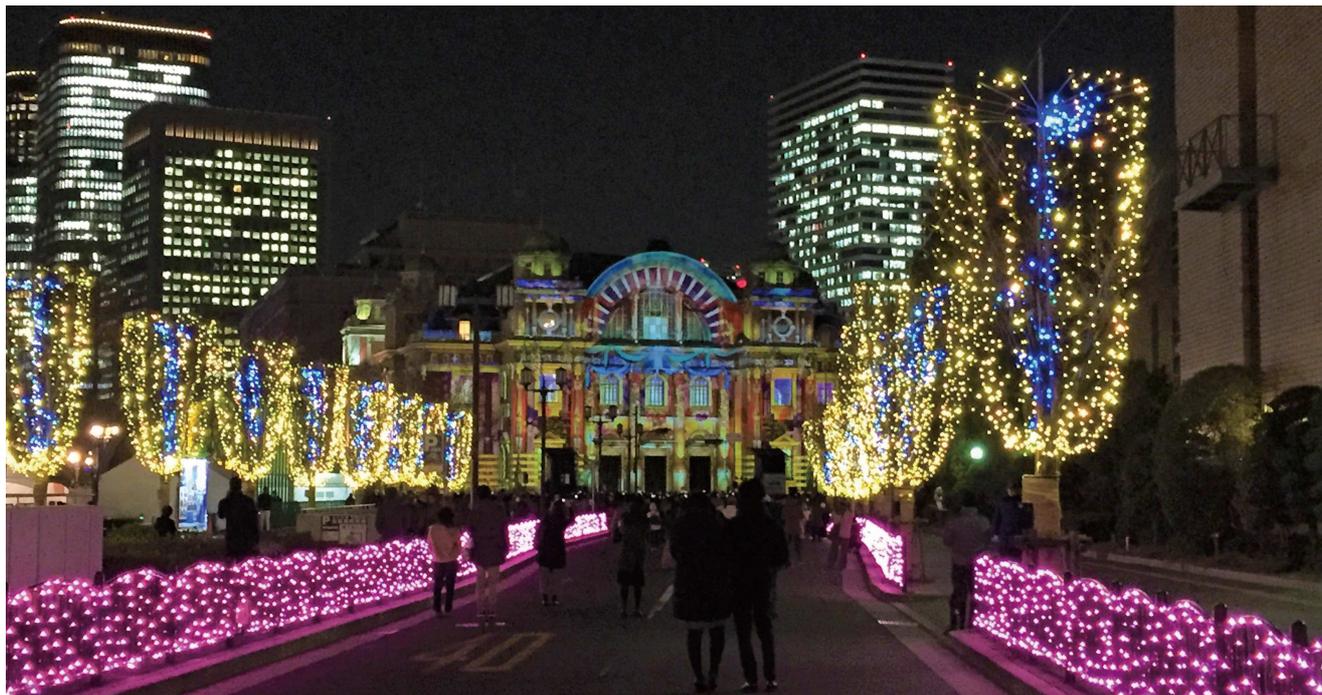


真宗佛光寺派
大阪教区・
別院だより

大悲

第 32 号

平成31年(2019年)
1月1日 発行



100年の輝き中央公会堂（大阪市北区）

昨年九月、記録的な台風が大阪を直撃し、数多くの樹木が根こそぎ倒されました。街路樹など、主として十分に根を張ることができていなかった木が被害に遭ったようです。

自坊の樹齢百年を超える桜も、大部分が折れてしまいました。年月を積み重ねてきた大木が、一瞬の暴風によって姿を変えてしまった光景は、まさに無常そのものでした。

しかしこの桜は根がしっかりと張っていましたが、根元から倒れることはありませんでした。庭師さんの話では、この春も元気に花を咲かせてくれるだろうとのことでした。

積み重ねてきた自身の知識や経験をたよりに、地に足をつけて立っているつもりでも、思いもよらない出来事に足元からよろめき倒れてしまうこともあるこの人生。

本願の大地に、仏さまからいただいたどっしりとした根を張って、無常の風に揺らぎながらも、決して倒れてしまうことのない人生が念仏者には恵まれているのです。

（門川崇志）



と う ひ が ん 到 彼 岸



私の帰依処

光圓寺

かつべ まさのり
勝部正典

連続となりました。

新青森駅から新幹線を乗り継ぎ、自坊のある天王寺へ帰阪した時にハルカスが見えてくると「ああ地元に戻って来たなあ」とホッとしました。

帰る家があるからこそ旅行は楽しいのだ。帰る家がなければそれは旅行ではなくただの放浪であり、さまよっていることなのだ。本当に帰る家があった良かったとしみじみ感じた夏の休みでした。

同じように人生においても帰る場所、心が落ち着く世界を我々は求めているのではないのでしょうか。

帰って往ける世界

春分・秋分の日には太陽が真東から昇り、真西に沈んでいきます。古くから人々は西に沈む夕日に手を合わせ、彼岸（浄土）に思いを馳せてきました。

親鸞聖人は彼岸について次のように

おっしゃったと『歎異抄』第九章の中で書かれています。「名残惜しく思えども、娑婆の縁尽きて力なくして終わる時、彼の土へは参るべきなり」と。

大きな安心を持って

『歎異抄』のお言葉を通して、私たちがすでに阿弥陀さまの救いの中にいるということ聞かせていただき、そして帰って往ける浄土があるのだと知らされた時、私たちは大きな安心を持って生きていけるのです。

お彼岸は亡き人を偲び、手を合わせるだけではなく、阿弥陀さまの喚びかけに耳を傾ける大事なご縁なのです。

(平成30年9月26日勤修の

大阪別院彼岸会法話より)



毎年「お盆参りが終わったら避暑に出かけよう」と思うのですが、多忙な時期が終わると夏バテで行くことができませんでした。

しかし今年こそはと意を決し、青森へ行きました。青森では津軽三味線の演奏が聴ける居酒屋で食事をしました。関西の味付けとは全く違い新鮮でしたし、さらに演奏者からお国言葉で話しかけられると聞き取れないなど驚きの

如にょ是ぜ我が聞もん

大悲心とぞ転ずなる

滋賀南教区 常楽寺 岸本秀一きしもと ひでかず師



本願の世界を広大な海原の如しとただだかれていると語られました。

転ぜられるのは今

また「大悲の心が私たちのなかに開かれてくるのは今」「種々雑多な川の水が、大きな海へと帰入する。帰る世界のある人生を今生きるのです」と味わわれました。

この世の差異を超えて、すべてを分け隔てなく受け入れてくれる世界が人生の終着点と定まっているからこそ、この世において不都合なことにも向き合って力強く生き抜くことができる。そう聞かせていただく有難いご法縁でした。

(佐々木太一 記)

平成30年10月27日、大阪別院で真覚ご門主御親修のもと、報恩講が厳修されました。

真覚ご門主は惠照前ご門主の前年の本山御正忌報恩講での御親教を紹介されました。

惠照前ご門主は「長男である真承上人に先立たれた悲しみに接し、そのご縁によって家族として同じ時を過ごせるのは決して当たり前ではなかったことに気づかされ、それと同時に今までいただいていたご恩が感謝してもしきれないほどであったと目が開かれ

ました。それは悲しみの中の温かな喜びです」とおっしゃったと話されました。

大悲の心

岸本秀一師は、惠照前ご門主がお引きになられたご和讃「弥陀智願の広海に 凡夫善悪の心水も 帰入しぬればすなわちに 大悲心とぞ転ずなる」についてお話しくださり、悲しみに右往左往する心が転ぜられる本願のはたらきに触れられました。

阿弥陀さまの智慧の本願に

抱かれていると目覚める時、凡夫の心は大悲の心へと転ぜられていく、そのはたらきを親鸞聖人が海に喩え味わっておられるご和讃です。

海一味

岸本師は親鸞聖人が捉えておられる海の特徴を「一味の塩味」と示されました。人の一生、川の流れに似て様々に異なっているが、その違いに一喜一憂し、傷つけあっていく私たち。親鸞聖人はそんな辛い人生を包み込んでくれる

大阪探検

サントリー山崎蒸溜所



「山崎」の看板



蒸留釜のオブジェ



テイastingカウンター

【アクセス】

・JR山崎駅、阪急大山崎駅から、それぞれ徒歩10分。
(営業時間などはホームページでご確認ください)

昭和初期に建てられた風情のあるJR山崎駅から、古風な雰囲気を残す西国街道さいごくかいどうを高槻方面に徒歩10分で右手に大きなサントリー山崎蒸溜所の建物が見えてきます。

サントリー創業者、鳥井信治郎氏が京都と大阪の境、地下水豊富なこの山崎の地でウイスキーをつくりはじめて今年で96年だそうです。今ではジャパンウイスキーのふるさととして、大変人気で、海外からも大勢の人が製造工程の見学(要予約、一人千円)に訪れています。見学ツアーでは、モルトウイスキー「山崎」誕生の逸話や、モルトウイスキーづくりのこだわり、匠の技などの特別な映像と製造工程を見学できます。

また、「山崎」構成

原酒(非売品)のテイastingも可能です。

山崎ウイスキー館

敷地内にあるサントリーの歴史やウイスキーに関するいろいろな資料館は当日でも入場できます。自分のペースで回れ、世界のさまざまなウイスキーや希少な原酒、蒸溜所ならではのウイスキーが楽しめるテイastingカウンターも。ただ残念なことに飲酒はできてもおつまみはありません。持ち込みもダメです。

館内ギフトショップでは、蒸溜所限定ウイスキーはもちろん、こだわりのグラスや貯蔵樽を加工して作ったオリジナルグッズが購入できます。純粋に繊細なウイスキーの奥深い香味を実感してみませんか。

(章名 彰)

ごえんさんを訪ねて

こうげんじ

光源寺 (大阪市平野区) 中院秀昭 住職

なかのいん ひであき



光源寺の創建はあきらかではありませんが、もとは天台宗の寺院であったものを、嘉吉年間(一四四一〜一四四三年)の道忍の時に真宗に改宗されました。また、十二世住職智云の時、退廃していた寺を大阪城落城後、徳川家康の命で復興させ元和四年(一六一八年)に落成したと伝えられています。

桁行九間半・梁行八間の本堂は、平野郷屈指の立派なお堂でしたが、昭和三十九年六月に全焼しました。本堂再建へのご門徒さんの熱い思いから、二年後の昭和四十一年十一月に再建されました。

住職と副園長

この歴史と伝統ある光源寺の第二十七世住職を秀昭さんは平成十九年に継職されました。

昭和二十九年より境内地で光源寺幼稚園を経営されており、住職は法

務に加え幼稚園の副園長としても活躍されています。お寺の幼稚園らしく、年間行事の花まつり・報恩講・成道会・涅槃会には園児にも参加してもらい、住職がお話をされます。

地域に開かれたお寺として

光源寺は平野郷の中心に位置し地域に根ざした利点を生かし、ピアノ教室や英会話教室も開設され卒園生も多く通っているそうです。

住職は、学生時代から音楽サークル



本堂にて、園児と一緒に勤められる住職

ルに参加され、「ギター歴は長いのですが、最近はずかづかっています」と話されました。

好きな言葉は「明日は明日の風が吹く」だそうです。楽天的な一面もありです。「お寺と幼稚園を通して、子どもたちに手を合わす生活を伝えていきたい」と抱負を語っていただきました。(長田 謙)

■光源寺(こうげんじ)

〒547-0044

大阪市平野区平野本町4-11-5

電話 06-6791-0456

Fax 06-6793-9091



花まつりの様子

大悲トピックス

■大阪別院報恩講を厳修

10月27日、心配した前夜の雨も上がり、爽やかな秋空の大阪別院にて、真覚ご門主御親修のもと賑やかに報恩講が厳修されました。

大阪教区内の僧侶で構成される伶人衆の厳かな雅楽の音で法要が始まり、お参りの方々も一緒にお正信偈をお勤めさせていただきま



㊤ 雅楽を奏でる伶人 ㊦ 正信偈のお勤め

した。お勤めに続いて、ご門主より御親教(おことば)があり、その後、岸本秀一布教使より複演(法話)を賜りました。

(大阪別院輪番 葦名 彰)



㊧ ご門主の御親教 ㊨ 岸本師の複演

■お悔やみ

謹んで哀悼の意を表します。

第六組・慈光寺

和田正明様 行年73歳

(8月26日寂)

御本山 **近** 用達

株式会社 **川勝法衣店**

フリーダイヤル 0120-075-055
(〒600-8344) 京都市下京区花屋町通油小路東入

電話 (075) 371-0367(代)
FAX (075) 371-5088

本山佛光寺 御用達

石の総合メーカー

株式会社 **石留石材**

ホームページ
<http://www.ishitome.co.jp>

本社:京都市中京区堀川御池角
TEL 075-841-1149 FAX 075-812-5826

- 大正三年創業の信頼と実績 -

石留石材株式会社

各種石塔・石仏・記念碑
寺社建築石材まで

○ご相談は下記フリーダイヤルへ 携帯・PHS OK

0120-53-5578

[本社・工場・展示場] 藤井寺市津堂2丁目9番29号

浜屋は関西最大級の
お仏壇・お仏具・墓石・御寺院お仏具の
専門店です。

やすらぎの
世界を創る **浜屋**

通話料無料/浜屋姫路本社フリーダイヤル

お問い合わせ
お申し込みは **0120-1616-94**

●受付時間/午前10時～午後6時30分

燦ホールディングス グループ

まごころ葬儀を創造する。

公益社

公益社 ご葬儀相談センター (24時間・365日受付・通話料無料・携帯電話OK。)

0120-567-701

※2012年5月現在 [2-0131]

燦ホールディングス グループ

なごみ庵

きたはま

KITAHAMA

法要料理 希望の場所までお届けします。

■四條畷店 ☎0743-78-7521
■瓜破店 ☎06-6769-0140
■伊丹店 ☎072-773-7531

※2012年5月現在 [2-0132]

だいひ 絵日記

- 9月28日(金) 法友会研修会(和讃のころこ・講師:三木彰円師) ①
- 10月17日(水) 大悲の会編集会議(第32号読み合わせ)
- 10月20日(土) 佛青懇和会大阪別院仏具おみがき
- 10月27日(土) 大阪別院報恩講(法話:岸本秀一師)
- 10月27日(土) さつき会大阪別院報恩講奉仕活動
- 11月14日(水) 大悲の会編集会議(第32号読み合わせ)
- 11月27日(火) さつき会御正忌報恩講奉仕活動(～28日)
- 12月4日(火) さつき会研修会(防犯について・講師:住吉警察防犯課) ②
- 12月15日(土) 法友会研修会
(聴く覚悟～臨床宗教師として～・講師:石原真師)
- 12月25日(火) 大悲の会編集会議(第32号発送作業・第33号内容検討)
(法友会=住職会、さつき会=坊守会、佛青懇和会=青年会)



和奏の会 翠笛会

寺院のイベントに邦楽(尺八・箏)出張演奏いたします。
曲目はリクエストできます。
事務局:阪南市新町 宝林寺
電話 072-472-1414
<http://homepage2.nifty.com/suiteki/>

創業安政3年
京 佛 具 調 進
森田屋

福野御佛具處

〒601-8424
京都市南区西九条猪熊通九条上る
tel. fax 075-691-8423

仏跡参拝なら専門旅行会社にお任せ下さい!!

～歩もう仏陀の道のりを～



〒550-0013
大阪市西区新町1-8-1 行成ビル
お気軽にお問い合わせください
TEL. 06-6531-1344

協 賛

法 友 会 会
さ つ き 会 会
佛 青 懇 和 会 会

高照寺住職 隅谷俊紀



おじゅっさんの
おはなし
住職うなずき法語法話

好評発売中

夕 朝 京仏壇・京仏具
に 感 謝 若 林
に 礼 拝

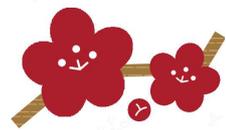
www.wakabayashi.co.jp
京都市下京区七条通新町東入
☎ (075) 371-3131代 年中無休
E-mail info@wakabayashi.co.jp

フリーダイヤル ☎ 0120-37-8585 (各店共通)
東京支社・築地店・札幌店・仙台店・福岡営業所



どなた様でもお参りいただけます

法要・法話会のご案内



大阪別院修正会

1月2日(水) 正午

大阪別院彼岸会

3月18日(月) 午後2時

法話：門川崇志 師(浄方寺)

3月21日(木・祝) 午後2時

法話：長田 讓 師(正念寺)

3月24日(日) 午後2時

法話：葦名 彰 師(妙圓寺)

本山佛光寺茶所布教

毎日午前7時半

※大阪教区布教使の担当は下記の通りです

1月21日(月)～31日(木)

法話：佐々木太一 師(常光寺)

3月1日(金)～5日(火)

法話：玉出宗順 師(光福寺)

3月11日(月)～15日(金)

法話：長田 讓 師(正念寺)

3月26日(火)～31日(日)

法話：寿栄松正顕 師(西光寺)

大阪教区寺院で開催される法話会

◎高照寺(堺市北区・072-252-2122)

1月12日(土) 午後3時

「聞法の集い」法話：門川崇志 師

2月23日(土) 午後2時

「真宗講座」法話：三木彰円 師

※詳細は各寺院にお問い合わせください

編集秘話

巻頭のよりどころは「慶ばしい哉、心を弘誓の
仏地に樹て」「無根の信」という法語。当初は文
中にあったこの言葉、短い文章の中で説明なし
に意が伝わるのか？と推敲の末、削除を決意。
文書伝道は伝わるのが第一ですが、聖人のお
言葉に直接触れてほしいという気持ちも。今年
もこの葛藤に悩ませていただきます。(門川)

編集後記

7頁、中央下の広告をご覧いただきましたで
しょうか？ このたび、『おじゅっさんのおはなし
～住職うなずき法語法話～』を発刊しまし
た。自坊で毎月発行しています寺報の「法語と
法話」をまとめたものです。ご一読いただけま
したら幸いです。ちなみに広告掲載にあたり、
広告料はお支払いしましたよ(笑)。(隅谷)

大阪教区・別院だより『大悲』第32号(冬号)
平成31年(2019年)1月1日発行(発行部数2200部)

発行：大悲の会

事務所：佛光寺大阪別院内

〒558-0011 大阪市住吉区苅田6-11-24 電話06-6691-1362

郵便振替口座：口座番号「00990-4-305218」加入者名「大悲の会」

大悲ホームページ <http://daihi.org/>

大悲の会

長田 讓(会長)

隅谷俊紀(副会長)

寿栄松正顕(会計)

玉出宗順(会計)

門川崇志(監事)

佐々木太一

葦名 彰